



サラリーマン増税阻止！ 総決起集会を開催



連合群馬は、サラリーマンを狙い撃ちした増税を阻止するため、昨年からの街頭や街頭、個別で資料やチラシ配布、街宣による世論喚起などに取り組んできました。

そのような中で、さらに勤労者の意識を高めるため、地域から群馬県、そして全国につながる一連した取り組みを展開しました。

組合員に一番身近な地域では、県内12地協で学習会を開催し、課題提起映像の聴視により増税への意識高揚とインターネットを活用した「think-tax.jp」プロジェクトへのアクセス要請を行いました。



(600名が参加した6.13総決起集会)

また、6月13日には、連合群馬の取り組みとして、前橋テルサにおいて600名規模の総決起集会と前橋市街地でのデモ行進を行いました。

総決起集会は、地協を中心として行ってきた取り組みの集大成と位置付け、地協代表として石倉議長（伊勢崎地協）・上原事務局長（安中地協）、産別代表として大塚会長（電力総連）・佐藤副委員長（国公総連）よりこれまでの取り組み報告を受けるとともに、議員懇代表として富岡ゆきお参議院議員・長崎博幸県議会議員より国や県での情勢報告を受けました。

続いて2月に実施した「怒りの川柳」で入賞した下山篤志さん（基幹労連）より川柳に込めた思いを入賞した時の感想を交えて発表してもらいました。

その後、サラリーマン増税の撤回と働く者の視点から税制改革を求める宣言を参加者全員で確認するとともに、6.15中央集会に向けて大橋会長によるガンパロー三唱を行い、増税阻止に向けた団結を確認しました。

総決起集会終了後には前橋市内をデモ行進し、力強いシュプレヒコールと街頭宣伝により、市内中心街で働く市民や、家路に急ぐ勤労者に対するPR活動を展開しました。



(前橋市内のデモ行進風景)

6月15日には、各地方連合の取り組みを総括した全国一斉行動「反転攻勢！連合6.15東京大結集」集会が開催され、主会場となった東京国際フォーラムには全国から4,300名が参加しました。

連合群馬からは県内各地域協議会の役員を中心に34名が参加し、全国の仲間とともに増税反対への決意を新たにしました。

集会では、参加者へのインタビューが行われ、連合群馬を代表して、小金澤議長（富岡地協）がthink-taxに取り組んだ感想を聞かれ、「自分の増税額にも驚いたが、ズシリチャートや今日のインタビューで周りの人の増税額も知り、さらに驚きました。」とインタビューに答えました。



(司会者の質問に答える小金澤議長)